

茨城県图画工作・美術教育研究部研究調査委員会 授業実践研究報告（令和元年8月）

研究テーマ	発見から想像し、表現につなげる鑑賞活動の工夫 —小学2年「友だち見つけた！」の実践を通して—
-------	---

日立市立河原子小学校 教諭

I 研究テーマについて

児童は、身の回りの様々なことに興味を示し、時には誰も考えつかないような想像をすることがある。それは、图画工作科において、造形活動や鑑賞の活動に現れることが顕著である。しかし、自分の思いを言葉に表すことを苦手とし、鑑賞という活動に苦手意識があり、漠然と「よい」「きれいだ」としか表現できない児童も少なくない。そこで、導入を工夫し、題材に興味をもつことができるようになると、対象に面白さを感じたり、周りの人と共有できるよさなどを見付けたりしながら自分なりに意味や価値をつくりだすことができ、豊かな鑑賞の活動につながると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 友だち 見つけた！

2 題材の目標

- 身の回りにあるものに关心をもち、顔のような形を見付ける活動を楽しもうとしている。
(关心・意欲・態度)
- 顔に見える形を見付けることを楽しみながら、どのように表すか考えている。
(発想・構想の能力)
- 見付けた「友だち」の特徴をとらえ絵に表すために、材料や用具の使い方を工夫している。
(創造的な技能)
- 自分で見付けた「友だち」の面白さや楽しさを絵やスケッチに表し、伝え合いながら感じ取っている。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態

【児童の意識調査 23人調べ】

- 図工の授業は好きですか。
 はい・・・23人 いいえ・・・0人 わからない・・・0人
- 図工で好きな学習はどれですか。
 絵・・・5人 工作・・・7人 鑑賞・・・0人 造形活動・・・3人
 全て好き・・・8人 好きな活動はない・・・0人
- 友だちの作品を鑑賞することは好きですか。
 はい・・・20人 いいえ・・・1名 わからない・・・2名
- それはなぜか（いいえ、わからないと答えた理由：複数回答可）
 - ①作品を見るのが楽しくないから・・・1人
 - ②何と書いていいのかわからない・・・0人
 - ③作品のいいところが見つからない・・・2人
 - ④考えるのが好きではない・・・2人

本学級の児童23名は、全員団工が好きで、どの活動においても生き生きと取り組んでいる。1学期に行った、身の回りにある材料で絵に表す活動では、材料の毛糸をおたまじやくしに見立てる児童や人物のひげを利用する児童など、自分の思いや考えたことを自由に表現することができた。しかし、想像力豊かな児童が多くいる反面、友だちの作品や参考作品に影響されてしまい、自分の工夫が見られない児童の姿も目立つ。そこで、自分の発見やアイデアを言葉や絵で発信する経験を取り入れ、その大切さに気づかせたい。

また、まわりの友だちと一緒にを行う絵画や工作の活動とは違い、これまで行ってきた鑑賞の活動は、一人ひとりが鑑賞カードを片手に廊下に掲示してある作品を見に行き、授業中ということも配慮して黙って書き込むというものだった。そのため、自分自身で作品のよいところを見付けなければならず、鑑賞への苦手意識はそこからくるのではないかと考えられる。さらに、文章に表すことが苦手な児童もあり、普段の作品づくりでは様々な発想をし、面白い表現をする児童も、鑑賞では「上手い」「きれい」などの定型文になってしまう。本題材では、発見した「友だち」の特徴や考えを説明したり、友だちの発表を聞いたりする活動を通して、普段とは違う発見が期待できると考える。

(2) 題材観

本題材は、いつも見慣れている場所や空間にある造形物や樹木などに注目することで、形の楽しさや面白さを発見することをねらいとしている。同じ物でも、一部を切り取ってみる、向きを変えて見る、接近して見るなど、いろいろな見方を体験することは、遊びの感覚も刺激し、見立てる、物語を想像するなどの力を働かせながら「友だち」の楽しさや面白さを感じ取ることができるのでないかと考える。さらに、手づくりカメラを使うことで植物や造形物の細部に注目することへの意欲付けになるのではないかと考える。のぞき穴を通して部分を切り取って見ることができるので、いつもと違った見方で形を発見し、活動を活発にすることが期待できる。活動の際は、夢中になってのぞきながら歩いたり太陽を見たりしないように、安全面には十分に留意したい。

(3) 指導観

導入は、教師が手作りのカメラを持って教室に入るところから始める。「友だち」探しに欠かせないカメラを作ること、カメラの穴を通すことでいつもとは違う世界が見えること、見方を変えると「友だち」が隠れていること等、児童が興味をもったところで、活動内容を知らせる。まずは、教師が事前に校内で撮影した拡大写真を掲示し、児童に「友だち」を探させることで、活動への意欲をもたせたい。活動の見通しがもてたら、色画用紙でカメラをつくり、のぞき穴から見える世界を楽しませたい。「こんなところに顔に見える形があった」という驚きを大切にしたいので、友人にその面白さや楽しさが伝わるように表し方を工夫させた。見つけた「友だち」をスケッチする画用紙には、「友だち」の名前、住んでいる場所、様子などを書く欄を設け、「友だち」の様子をイメージしやすいようにする。見つけた「友だち」をもとに作品を描き、鑑賞の活動を通して、作品への思いや自分の感じたことを伝える機会としたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
身の回りにあるものに关心をもち、つくったカメラを使って顔のような形を見付ける活動に关心をもつ。	顔に見える形を見付けることを楽しみながら、どのように表すかを考えている。	見付けた「友だち」の特徴をとらえ絵に表すために、材料や用具の使い方を工夫することができる。	自分で見付けた「友だち」を絵やスケッチに表し、楽しさや面白さを感じ取っている。

5 指導と評価の計画（7時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次	・教科書などを参考に、身近な物が顔に見えることを知る。	・教科書を参考に、身の回りにあるものをよく見ると顔に見える形があることに気づいている。 関 【活動の様子】
	・自分のカメラをつくる。	
第2次	・カメラを持って「友だち」を探す。	・つくったカメラを使って顔のような形を見付ける活動を楽しんでいる。 関 【活動の様子】
	・探検バッグに挟んだワークシートに、見付けた「友だち」をかく。	・顔に見える形を見付ける中で、「友だち」の名前、様子など、どのように表すかを考えている。 想 【活動の様子・ワークシート】
第3次	・見付けた「友だち」を基に、材料や用具を工夫して絵に表す。	・見付けた「友だち」の特徴をとらえ絵に表すために、材料や用具の使い方を工夫している。 技 【作品】
第4次	・どこでどのような「友だち」を見付けたのかを発表し合う。	・自分で見付けた「友だち」や、他の児童が見付けた「友だち」の面白さや楽しさを感じ取っている。 鑑 【発表・ワークシート】
	・互いの絵を見合い、面白さを感じ伝え合う。	

6 指導の実際

第1次 教科書や写真から、顔に見える形を探し、カメラを作る。（1時間）

導入として、学校内で見付けた、顔に見える身近な物の写真を黒板に貼り、どこが顔に見えるか児童に探させた。写真は各3種類用意した。また、ワークシートの書き方例を提示した。

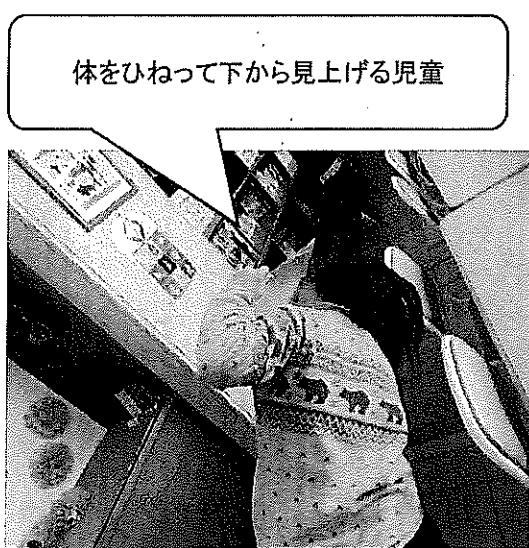


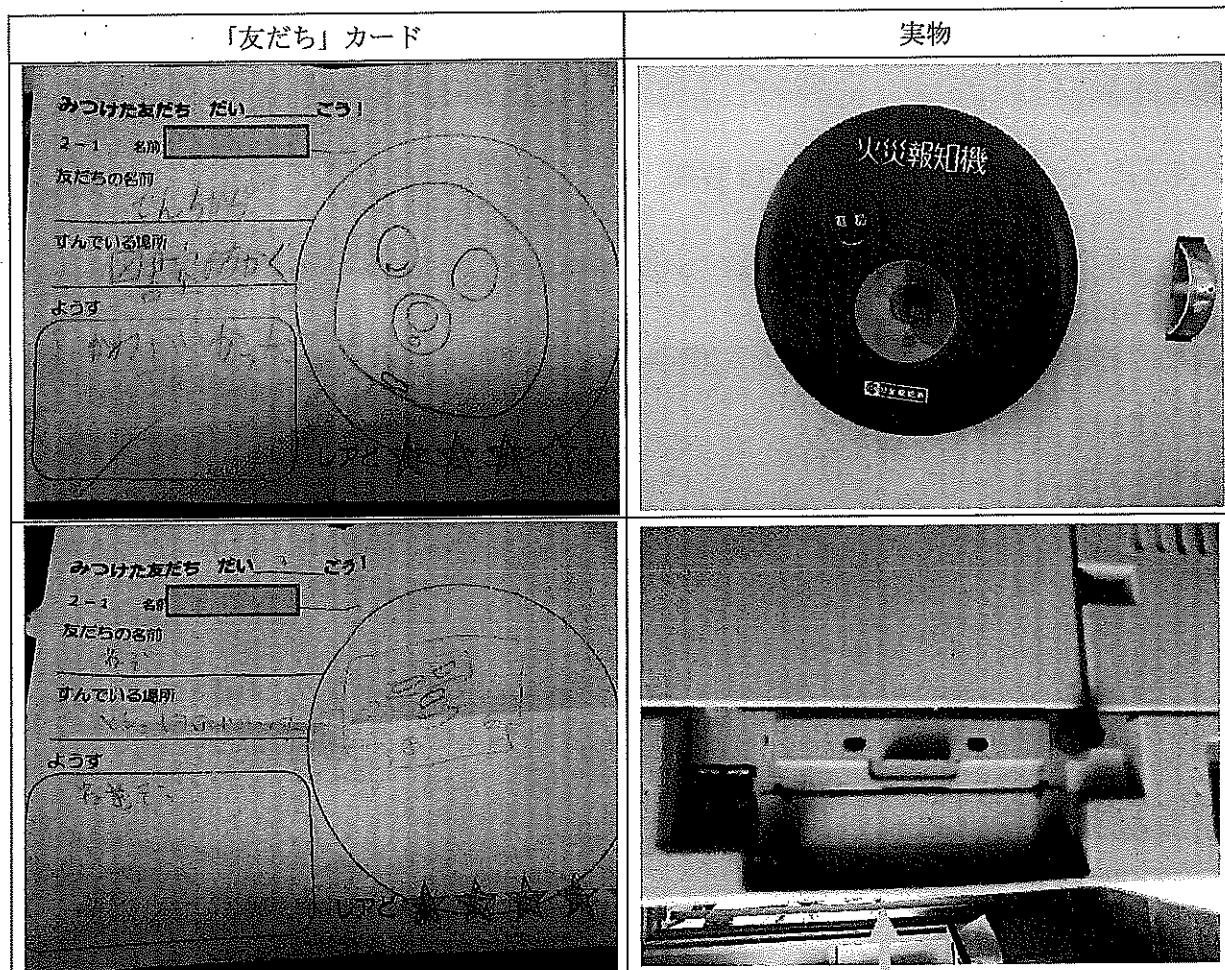
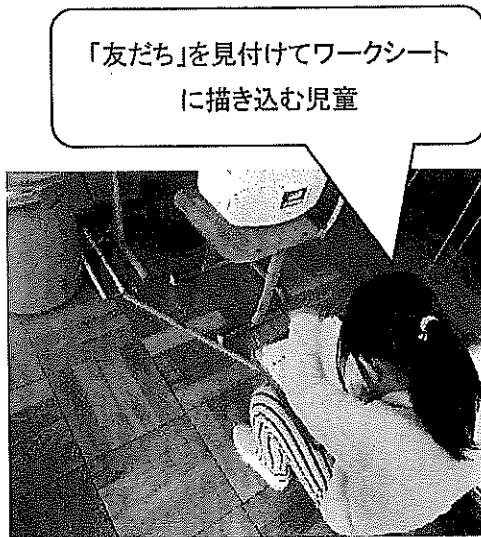
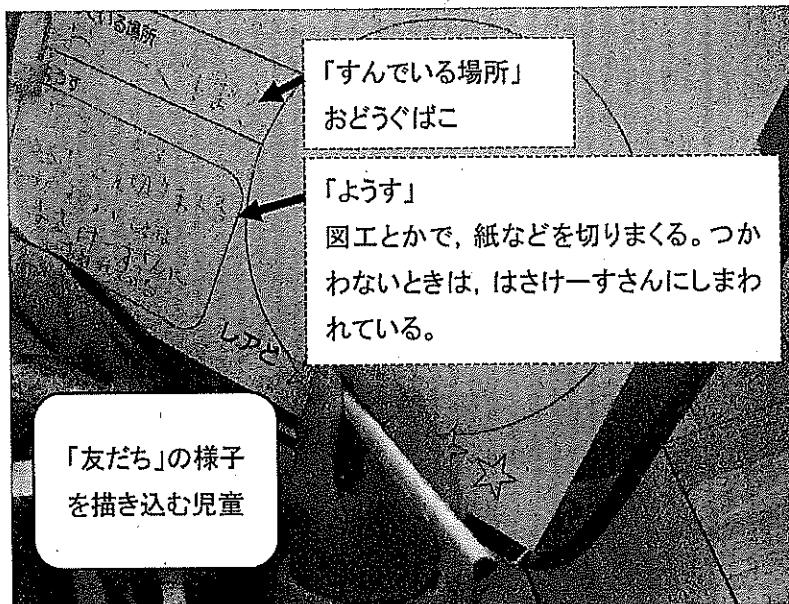
色画用紙に穴開けパンチでのぞき穴を開け、カメラを作った。



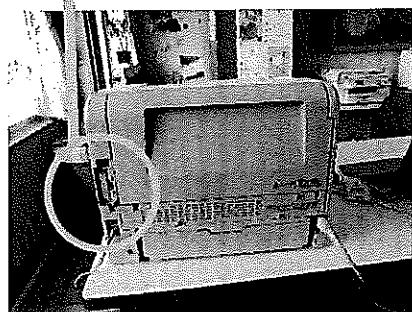
第2次 カメラを持って、「友だち」を探す。(2時間)

校内を自由に歩き、「友だち」を探した。カメラののぞき穴から、様々な角度でのぞき込み、たくさんの「友だち」を発見した。



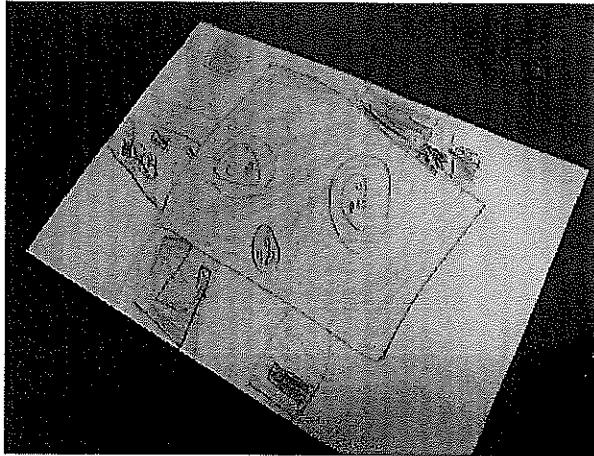


天井や消化器、椅子など、様々な視点から「友だち」を見付けることができた。中には火災報知機のベルやプリンターの接続部など、思いもよらないところからの発見もあった。



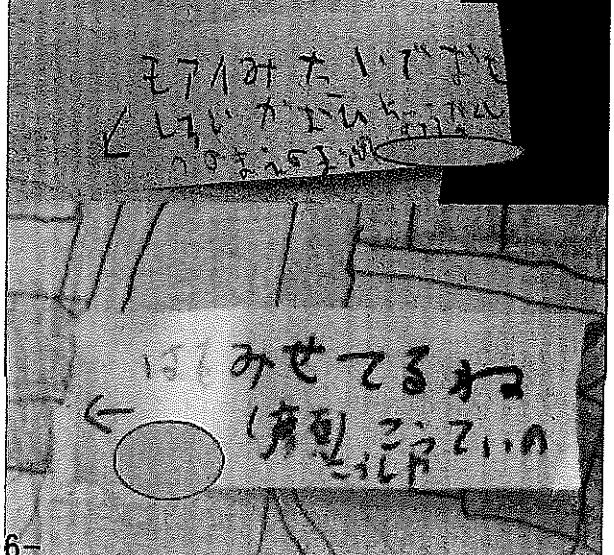
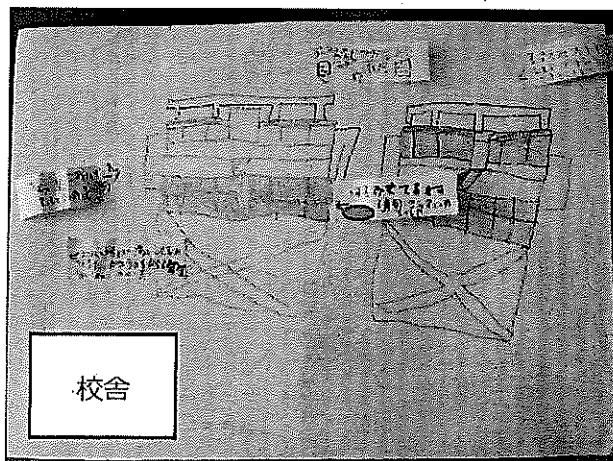
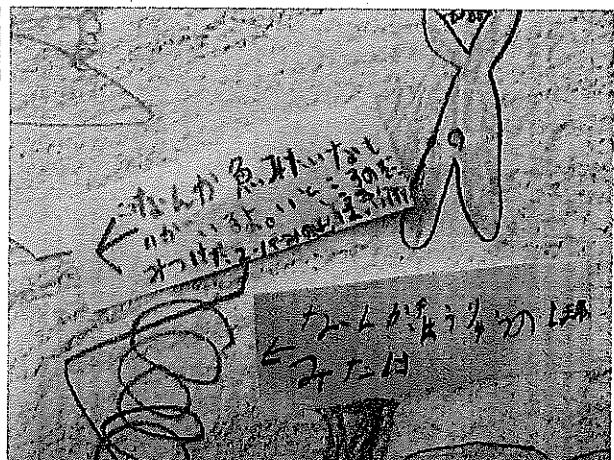
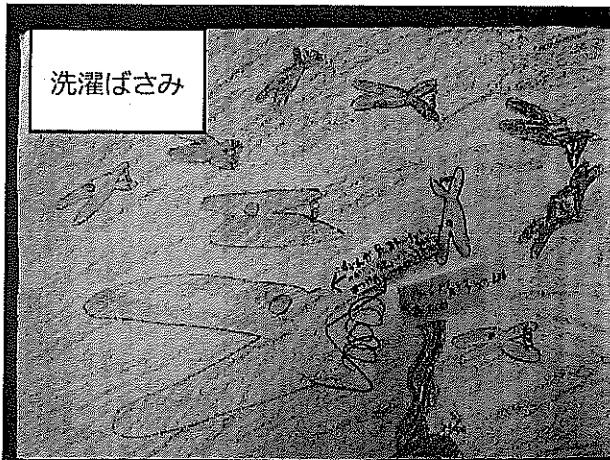
第3次 みつけた「友だち」を絵に表す。(1時間)

「友だち」がどこにいるか、見た人に探してもらえる
ように、全体図を描いた。



第4次 絵から「友だち」を探す。(2時間)

「友だち」の絵を紹介し、どこに「友だち」がいるのか、どんな名前か、どんな様子に見えるのか、付箋を貼って思いを伝え合った。



III 研究の成果と課題

1 成果

- ・小学校学習指導要領解説（图画工作編）P18 の各学年の目標では、低学年の「学びに向かう力、人間性等」について「楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。」と示されている。この「学びに向かう力」を伸ばすために、「対話型鑑賞」の一部を参考にして活動に取り入れた。対話型鑑賞とは、参加者が鑑賞対象についてやり取りしながら見方・感じ方を広げ、作品に関する意味・価値を協働的に創り出していく対話を取り入れた鑑賞の指導方法のことである。みつけた「友だち」を表した絵の鑑賞では、自由な見方を大切にしたかったので、製作者の思いを抜きに、見る側の思いをそのまま付箋に書かせた。鑑賞の後、製作者の思いを知ることや、鑑賞者と製作者の話し合いの活動を通して、さらに深い学びにつながった。今後も、学年の系統に沿って、鑑賞や表現の活動の発展につなげていきたい。
- ・手作りカメラやワークシート、題材などから、児童が興味を持って生き生きと活動することができた。鑑賞の時間では、作品から「友だち」がどこにいるのか、どんな名前なのか、どんな様子なのか想像力を働かせて鑑賞し、思ったことを素直に表現することができ、様々な意見に触れる機会となった。また、周りの意見に左右されることなく、自分が感じたままに「自分にはどんなものが見えるか」を付箋に書くことができた。
- ・製作者の意図した「友だち」の他の部分にも「友だち」が見つかったり、同じ「友だち」でも違う見方をしていたりと、その違いを楽しんで交流していた。また、活動が終わってからでも、日常の中で「友だち」を探しては共有するなど、いつもとは違う物の見方を生活に取り入れ、身近な物の色や形を楽しむ児童の姿も見られた。

2 課題

絵に表す際、クレヨンやクレパス、絵の具など、画材を指定しなかったため、活動の取りかかりや作業の進度にばらつきが見られた。一枚を細かく丁寧に仕上げる児童や、クレヨンで素早く何枚も仕上げる児童など、一枚一枚のクオリティにも差が出てしまったため、画材も具体的に指示していくたい。

付箋を貼る際、「ここに○○な顔が見える」という例文を用いて児童に探させたが、中には「ここ」とだけ書いてある付箋もあり、「友だち」を見付けてもその様子まで詳しく表せない児童も、自然に言葉で伝えられるような手立てを考えていきたい。

※参考資料

- | | |
|---------------------|------------------|
| ・小学校学習指導要領 | (平成29年 3月) 文部科学省 |
| ・小学校学習指導要領解説 図画工作編 | (平成29年 7月) 文部科学省 |
| ・「対話型鑑賞」の学習指導に関する研究 | 大和浩子 金本美貴 |

